

## 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 新居浜市立角野中学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（ ）

所在地 〒792-0833

愛媛県新居浜市宮原町 11 番 51 号

E-mail sumj-ad@esnet.ed.jp

Website http://sumino-j.esnet.ed.jp/cms/

幼児児童生徒数 男子 164 名 女子 157 名 合計 321 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

### 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

### 3. 活動内容

#### (1) 活動の概要

本校では「大人になっても語ろう！角野の誇り」をテーマとして、目的を下記のように設定した。

- (1) 将来に渡って、学び、成果を発信し、地域に貢献しようとする人材を育てる。
- (2) 他者を尊重する態度や、他者と適切な人間関係を構築できる資質を身に付け、協力して問題の解決を図ることができるようにする。
- (3) 自分を律し、明るい展望をもって将来を切り拓いていこうとする態度を育成する。

#### ① 日常の教育活動を通して

##### ア 確かな学力の定着と向上のために

生徒会の学習委員会や学級委員会では、3分前入室や1分前着席を呼び掛け、準備物や課題を確実に整えるための調査結果をファイルし、学習に取り組む雰囲気づくりを行った。また、生活日誌「ともしび」に「学習のポイント」掲載し、家庭学習や自主学習のための支援策としている。

##### イ 生活習慣を身に付けるために

「時を守り・場を清め・礼を正す」は機会を捉えてうたいなおされている。

生徒会や部活動の取組としての朝の清掃活動や挨拶運動は、本校の毎朝の風景にしっかりと馴染み、朝の遅刻生徒は少なく、毎日の清掃時間には黙働が徹底されている。

ウ 互いの人権を大切にしたいよりよい教育環境づくりのために

生徒集会の冒頭には必ず「角中いじめ撃退アピール」を全校生徒で斉唱し、人権意識の高揚を図る。夏季休業中には生徒会役員と有志による大島青松園訪問、12月には第1回目の人権集会を開いた。

## ② 総合的な学習の時間を通して

ア 1年生 「地域を知り、関わろう」

テーマ別学習では、新居浜の「芸能」「郷土料理」「民話」「史跡・資料館」の4講座を開講して、生徒が自分の興味・関心に応じたテーマに取り組み、身近な地域の歴史や文化を学習した。調理実習や舞踊指導等、文化を継承してきた地域の人たちと交流し、その思いに直接触れた。

イ 2年生 「社会を知り、関わろう」

職場体験は34の事業所に受け入れていただいた。生徒たちは自分が将来生きていく社会について体験的に学び、実社会で生きていくために必要な素養について、地域・社会を支える一員としてどうあるべきかを考えた。

ウ 3年生 「将来を考え、実現しよう」

自分の希望とともに適性や可能性を考えながら地域や社会に貢献できる生き方について探り、進路選択を現実のものとしていった。また、社会福祉についての学習として「認知症サポーター講座」を受講し、より多様で広い社会で生きていくのに必要な素養や技能を身に付ける機会とした。

エ 全学年

校区の運動会や文化祭、地方祭、とうど祭りやあかがねマラソンと、地域で開催される多くの行事に、お手伝い、補助員、ボランティア等様々な立場で多くの生徒が参加した。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 仕事の図鑑（仕事の図鑑編集委員会）</li><li>○ 職場体験完全ガイド（ポプラ社）</li><li>○ なるには BOOKS（ほるぷ出版）</li><li>○ シゴト☆自分発見カード（（一社）えひめ若年人材育成推進機構）</li><li>○ すみの昔話と伝説（角野公民館）</li><li>○ 民話の里すみの（<a href="http://www.nbn.ne.jp/minwa15/">http://www.nbn.ne.jp/minwa15/</a>）</li></ul>
---

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

ユネスコスクールとしての活動は、主には各学年の総合的な学習の時間を利用して行き、「地域や地域に生きる自らの生き方を振り返り、よりよい生き方やよりよい地域をめざしていこうとする意欲や態度を育てるとともに、その実現のために主体的、創造的、共同的に活動できる生徒を育成する」ことを目標としている。そして、それぞれの学習活動は、横断的・総合的な学習や探求的な学習となるよう、各教科と関連付けたり、体験活動を適切に位置付けたり、言語活動の充実を図るための学習過程の工夫をしたりしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

指導体制としては、単元や生徒の実態に応じて学習形態を工夫したり、各学年団を基盤にして情報交換しながら全教職員で指導にあたっている。また必要に応じて、外部人材を活用し、講演や講座を開いていただいたり、体験学習先として生徒を受け入れていただいている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

保護者、教職員からの学校評価アンケートに、「家庭や地域との連携や情報提供」「人の生き方について考えさせたり、豊かな心を育てようとする学校の姿勢」に関する項目をあげた。いずれも学校の取組について75%以上の肯定的な評価を得たが、包括的な項目内容であるので、そのまま総合的な学習の時間の評価として受け止めるわけにはいかない。課題としては、生徒の活動を通して地域や保護者にもっとアピールしていきべきだということが挙げられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

地域の運動会、文化祭、とうど祭りなどの行事を通して、中学生の地元との交流のアピールの場となっはいるが、整理された活動の成果の発信となっはいない。本校の取組の課題である。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

1年生の、地域の文化から学び、地域を知ろうという学習活動においては、郷土料理研究家を招いて調理実習を行ったり、「せつとう節保存会」の方々に郷土芸能の実演をしていただいたり、「民話の里すみの」の方々と民話紙芝居を通して交流をもたせていただいたりした。この活動を校区、地域に開かれたものにするにはもう一工夫が必要である。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

将来的な交流のためのネットワークを構築するには、情報の発信がまず第一であると考えます。学校のホームページを利用し、本校の取組を広く伝えていきたい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

学年による活動内容を継続、継承してきたことによって、教師は学習の見通しをもって指導にあたることができるようになり、計画や準備が進めやすくなった。生徒は、自分たちが地域に貢献できること、文化の継承に携わることができることなどへの興味関心が高まり、作品展への応募作品数や各種地域行事へのボランティア参加も増えてきた。

### (3) 平成30年度の活動計画

テーマは昨年まで同様「大人になっても語ろう！角野の誇り」とし、学級活動や道徳、朝の自主清掃や学期末大掃除、総合的な学習の時間など、あらゆる教育活動を通してE S D活動に取り組む。

1年生から順に「地域を知る」「社会を知る」「将来を考える」と、3年間を通して活動することで、将来にわたって校区や地元に貢献し続ける人材を育成することができるよう計画、実践していく。

1年生では「地域を知り、関わろう」をテーマに、地域学習の講座をいくつか開設する。また「働く人に学ぶ進路学習会」として、保護者、地域住民を講師として進路学習を行う。

2年生では「社会を知り、関わろう」のテーマのもと「職場体験学習」を行う。実社会で生きていくために必要な素養を体験活動を通して知り、より良い社会人になろうとする意欲付けを行う。

3年生では「将来を考え、実現しよう」のテーマで、「進路学習」を行う。自分の個性や希望を生かしながら、地域や社会に貢献できる生き方について考え、進路選択が行えるようにする。また、社会福祉についての学習を通して、より多様で広い社会で生きていくのに必要な素養や技能を身に付ける。

実践的な活動を通して、継続的に地域に貢献できる人材となっていくとともに、その素地として、時と場に応じてコミュニケーションをとったり情報を発信したりする技術を身に付けていく。